

令和元年度 岐阜県農政審議会開催結果

1 日 時：令和2年3月17日（火） 13：30～14：40

2 場 所：県庁議会棟西棟3階第1会議室

3 出欠状況

（出席者）

足立 能夫	（全国農業協同組合連合会岐阜県本部運営委員会会長）	
伊藤 由美子	（岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク会長）	
岩井 豊太郎	（岐阜県農業共済組合連合会会長）	
神谷 眞弓子	（東海学院大学学長）	
河田 昌子	（岐阜県 JA 女性連絡協議会会長）	
後藤 昌宏	（岐阜県指導農業士連絡協議会会長）	
杉山 ミサ子	（アグリ・エンジョイネット岐阜会長）	
高田 禮子	（ぎふ農業委員会女性ネットワーク会長）	
玉田 和浩	（岐阜県漁業協同組合連合会会長）	
道家 昌子	（岐阜市立女子短期大学副学長）	
林 喜美子	（生活協同組合コープぎふ組合員理事）	
福井 博一	（岐阜大学応用生物科学部教授）	
松岡 正人	（岐阜県議会農林委員会委員長）	
松下 貴夫	（一般社団法人岐阜県畜産協会会長）	以上 14名

（欠席者）

板津 徳次	（岐阜県町村会副会長・富加町長）	
大山 健二	（岐阜県青年農業士連絡協議会会長）	
桜井 宏	（岐阜県農業協同組合中央会会長）	
竹中 昌子	（一般財団法人岐阜県地域女性団体協議会会長）	
服部 秀洋	（岐阜県市長会・下呂市長）	
藤原 勉	（岐阜県土地改良事業団体連合会会長）	以上 6名

※50音順

（事務局：岐阜県農政部）

農政部 部長、次長（事務、技術）

次長兼東京オリンピック・パラリンピック農産物販売対策総括監

農政課 課長、技術総括監、笠松競馬支援室長、農業研究企画監

検査監督課 課長

農産物流通課 課長、東京オリンピック・パラリンピック農産物販売対策室長

農業経営課 課長、担い手対策室長

農産園芸課 課長、花き振興企画監

畜産振興課 課長、飛騨牛銘柄推進室長、畜産指導監

家畜防疫対策課 課長、家畜防疫対策監

家畜伝染病対策課 課長、野生いのしし対策室長

農村振興課 課長兼鳥獣害対策室長

里川振興課 課長、水産振興室長

農地整備課 課長、技術指導監

4 内 容

- (1) 会長の選出
- (2) 新たな基本計画の策定について（諮問）
- (3) 議事録署名者の選任
- (4) 議事「新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の策定方針」

5 議事要旨 別紙のとおり

1 開会

2 農政部長挨拶

- ・委員の皆様には、大変お忙しい中ご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。
- ・平成28年3月に策定した「ぎふ農業・農村基本計画」が来年度で五年目にあたり、計画の見直しの時期。
- ・本日は、新たな基本計画の策定について諮問した後、策定方針について議論していただく。
- ・忌憚のないご意見、提言をいただきたい。

3 会長選出

- ・委員改選に伴い、前会長の福井委員を引き続き選出。

4 諮問

【渡辺農政部長】

- ・福井会長に新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の策定について諮問。

【福井会長】

- ・今後、岐阜県の農業、農村のあるべき姿を想像しながら、議論を深め、県民の期待にこたえられるような答申をしたいため、委員の皆様におかれてはご協力いただきたい。

5 会長職務代理人・議事録署名者選出

【福井会長】

- ・規定により、神谷委員を会長職務代理人に指名。
- ・議事録署名者に足立委員と後藤委員を指名。

6 議事 新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の策定方針

【酒井技術総括監】

- ・資料1に基づき、新たな「ぎふ農業・農村基本計画」の策定方針について説明。
新計画は、国内外の社会情勢の変化や新たに出てきた課題に対応していくとともに、県の総合計画である「清流の国ぎふ」創生総合戦略とも整合を図りながら、県が取り組む重点施策を示すものとして策定したい。県の「総合戦略」は資料3を参照。
- ・資料2に基づき、現行計画の目標達成状況について説明。
現行計画で掲げている70の指標のうち、本計画の終期にあたる令和2年度末に概ね達成見込みの指標が、40指標、過半は達成が7指標、達成困難が23指標となっている。
- ・資料4に基づき、新計画策定のスケジュールについて説明。
- ・資料5に基づき、計画策定部会の設置について説明。

【岩井委員】

- ・五年間に農業を取り巻く情勢は大きく変化するため、五年間という期間は変えなくてもいいが、中間の三年目に見直しを行わないと中身がついていけないのでは。

【渡辺農政部長】

- ・期間は五年間を予定している。現時点の対応として、計画の中間年で見直しを行う方向で検討していきたい。

【林委員】

- ・消費者も巻き込みながら一緒に進めていきたい。

【福井会長】

- ・現行計画の指標について達成困難が三分の一弱あり、四年前に設定した指標が適切だったのかどうかも含めて考えなければならない。
- ・三分の一の指標が達成率50%未満というのは厳しい状況と感じる。

【渡辺農政部長】

- ・五年前の計画策定時には、高みを目指した目標を立てたということである。
- ・今回、新計画を策定するにあたり、色々なケースを想定しながら、また、委員の意見を踏まえながら、計画の目標を設定したい。

【福井会長】

- ・人口減の中では、高度経済成長の時のように農業が伸びる目標が必ずしも適切とは限らない。現状をいかに維持するかということも含めて新計画を検討していくといい。

【後藤委員】

- ・達成率の特に低い認定農業者数について、各市町村によって力の入れ具合が違うように思う。

【足立農業経営課長】

- ・認定農業者数2,171人のうち、約四分の一は70歳以上。
- ・現在、担い手プロジェクト2000を推進している中で、新規就農者には、認定農業者になって引き続き頑張っていたきたいと考えており、市町村と連携しながら支援していきたい。

【村下委員】

- ・目標達成率とあるが、新型コロナやCFSの関係で、令和2年度の達成見込みに関し「×」（達成率が50%未満）が増えると思うが、そういったことへの考えはお持ちか。

【渡辺農政部長】

- ・現行計画について、新型コロナウイルスなどマイナスの要因があるものの、令和2年度、新たに行う事業等もあることから、それらを工夫しながら目標を達成できるような形で進めていきたい。

【村下委員】

- ・達成見込みに新型コロナの影響は反映されているのか。

【渡辺農政部長】

- ・新型コロナの影響は見込んでいない。

【村下委員】

- ・指標に関して、数ではなく、質の面、内容の面というものは考えているか。

【雨宮農政部次長】

- ・県の農業生産をそのまま反映しないような指標もあることから、質・内容の面も踏まえながら、計画策定部会で意見を頂戴しつつ、指標の設定を進めていきたい。

【松岡委員】

- ・岐阜県は、海拔0m地帯から中山間地の高いところまで、非常に多種多様な農業があると実感。
- ・その中で、現行の基本計画には、地域という部分が抜けているのではないか。
- ・農地集積など、多種多様な問題が、県の単位で一括りにすると、目標の達成が厳しいところであり、もう少し地域性というところを勘案した計画を策定していただきたい。
- ・各市町村の担当者の意識の持ち方に、大変差があるように感じている。基本計画策定に対する市町村との連携方法等を教えてほしい。

【酒井技術総括監】

- ・令和元年7月～8月に各市町村の課長クラス及びJAとの意見交換を県内全域で実施。その際、意見を正直ベースで聞いた。
- ・計画を煮詰める中で、現状分析を含めて、このような意見を踏まえつつ、計画に反映していきたい。

【松岡委員】

- ・県の農政は非常に専門家が多いと思うが、市町村レベルとなると農政の担当者は専門家が少ないと感じる。
- ・市町村の農政担当者とJAとのネットワークをより一層拡充しながら、地域にふさわしい農業を推進することを計画に盛り込んでほしい。

【岩井委員】

- ・食料自給率について、岐阜県は25%で結局のところ、四分の一しか生産できておらず、この現状を県民は十分に把握していない。
- ・新型コロナなどにより、外国から食べ物が入ってこなくなったら、日本人は食べるものがなくなる。
- ・食料自給率を高めるためには、もっと消費者に対して地産地消を訴えていかなければならない。

【雨宮農政部次長】

- ・岐阜県の25%という食料自給率は、他県から比べても非常に低い。
- ・地産地消も含めて、いかに生産量を上げていくか、いかに県民の方に岐阜県産を食べてもらうかがカギだと思うため、進めていきたい。
- ・新計画において、食料自給率目標についても、何らかの形で載せていくような方向で検討していきたい。

【神谷委員】

- ・今、若者の人口が減っており、近い将来、農業をする人がいなくなってしまうという深刻な事態であり、食料自給率を上げるのも、生産者がいなければできないため、担い手の確保が一番大きな問題だと思う。

- ・新計画では、一番の重点は担い手で、その次は、というような形で、まず一番初めにやることをしっかり決めていくべき。

【雨宮農政部次長】

- ・次の計画に反映したい。
- ・現行計画では担い手づくりを一番に挙げており、新規就農者等の育成等を中心に進めてきた。
- ・トマトについては、生産者や面積は増えており、順調に生産量も増えていたが、昨年度は気象災害等に遭い、若干伸びなかったということがある。
- ・今後は気象災害にも対応した内容にしなければいけないと思っている。

【高田委員】

- ・市町村の農政の対応の仕方にばらつきがある。
- ・担い手の近くで指導する人の育成を重点的に行わないと、担い手、新規就農者が増えていかないように感じる。

【道家委員】

- ・健康や栄養、経済分野と特に連携しながら、より進みやすい方向で考えていただければ。

【杉山委員】

- ・市の職員が農政に対して一生懸命になってもらえていないところは、目標や指導要綱を明確に打ち出して、県から直接指導していただきたい。
- ・県では、飛騨牛を県のレベルで海外に売ることを考えていると思うが、鶏で岐阜県を売り出してもいいと思っているため、鶏のほうにも目を向けてほしい。

【河田委員】

- ・J A女性部は地産地消に力を入れており、女性部としてやれることを元気で一生懸命やっている。
- ・県には、担い手のことをしっかりと考えていただきたい。

【足立農業経営課長】

- ・市町村の連携については、担い手に限定すると、地域の就農支援協議会にて、県の普及指導員、J Aの営農指導員、市町村の担当者が全国の就農相談会で相談を行いながら、新規就農者に岐阜に来てもらっており、三者が頑張っている地域では、新規就農者の数字が伸びている状況。
- ・普及指導員が少なくなっていることは現実だが、まだ110名いるため、J Aや市町村を引っ張っていきながら、互いに高めあい、レベルアップしていければと考えている。

【足立委員】

- ・岐阜県は食料の輸入県であり、これは事実。
- ・耕作放棄地が岐阜県でも増えているという認識が、我々J A関係者も含め、行政も若干遅れていると思う。
- ・耕作放棄地を利用することで、食料自給率は上がると思う。

【福井会長】

- ・次の新たな政策を立てていく中で、いろいろなご意見をいただいた。
- ・次の一年どうしていくかということと、もう一つは新計画の策定に向けて、計三回の審議会を含

めて、進めていきたい。

- ・異論がないようなので、事務局からの原案のとおり承認することとする。
- ・予定していた議案の審議は終了するが、本日の議題の他、農業・農村の進行について、意見をいただければと思う。

7 その他ご意見

【村下委員】

- ・CSF からの再建に向けた支援に対する予算を新年度組んでいただいているが、十分な支援があるとは言えないため、生産農家の実情に合わせた柔軟な予算としていただきたい。
- ・酪農関係では、新型コロナウイルスの影響により、学校給食が停止となり、牛乳の行き場がない。こちらも県のバックアップをお願いしたい。

【玉田委員】

- ・現在、漁協の組合長をやっているが、内水面漁業において、漁師が生活をできるようにしないと行けない。世界農業遺産登録により、付加価値やネームバリューが上がり、利用拡大につながっている。
- ・今、知事が取り組んでいる飛騨牛の海外戦略は、需要拡大につながる。
- ・儲かる農業を構築することができれば、自給率も上がってくる。飛騨牛、鮎以外でも、柿等すべてのもので海外戦略に取り組めれば、儲かっていくと思う。

【松岡委員】

- ・作り上手の売り下手というところが岐阜県の農業に非常に強く感じた一年であった。
- ・付加価値をつけるために、アピールの仕方を考えていながら、農産物を高く売る、地産地消、需要の拡大等の観念を強く持って施策を考えていただければ。

【福井会長】

- ・これで本日の審議を終了する。

8 情報提供

【田口農政課長】

- ・新型コロナウイルス感染症に対する取組みについて説明。

9 閉会

【渡辺農政部長】

- ・本日頂戴した意見、提言を反映した新計画を策定したい。
- ・具体的な策定作業は、来年度早々に、計画策定部会を開催し、作業を進めていきたい。
- ・県に答申いただくまで、およそ一年間。委員には進捗状況を逐次報告しながら、十分審議いただきたいと考えている。